

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2774300301
法人名	社会福祉法人 石井記念愛染園
事業所名	グループホーム あいぜん
訪問調査日	平成 21 年 6 月 11 日
評価確定日	平成 21 年 7 月 10 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 6月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2774300301
法人名	社会福祉法人 石井記念愛染園
事業所名	グループホーム あいぜん
所在地	大阪市浪速区日本橋5丁目16番19号 (電 話) 06-6634-8969

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年6月11日	評価確定日	平成21年7月10日

【情報提供票より】(平成21年5月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 3 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5 階建ての 5 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	41,000 円
敷 金	有(150,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無○	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食 250 円 夕食 450 円 または1日当たり 円	昼食 350 円 おやつ 100 円	

(4)利用者の概要(5月10日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	名	要介護2	名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 89.2 歳	最低 85 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	愛染橋病院 檜山診療所 米永歯科 沢居眼科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

石井十次が始めた孤児院、保育所、夜学校などの事業を継承して、法人は大正6年に設立されている。当法人は現在、医療、保育、介護の事業を市内で展開している。特別養護老人ホームの開設と同時に、グループホームは同館5階に開設された。玄関にある創立者の胸像、理念の表示は、「地域住民にとって最も必要で、望ましいものを提供する」という法人の基本的立脚点を脈々と表明している。「愛する利用者だからこそ、何かを感じてそれを表現して欲しい。時間をかけて思いを共感する中で、出来なかったことも出来るようになる」と、管理者はその人らしい普通の生活の大事さを語る。バルコニー・中庭には豊富な自然を取り込み、室内では生活導線を考慮した設計と、混乱や不安を和らげる環境になるよう工夫が凝らされている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、「職員を育てる取り組み」において、内部研修・勉強会を随時開催しているが、計画的な研修という点では十分でないとの課題であった。管理者はその意義を認識し、外部研修などの計画実施に苦心してきているが、職員の受講体制の確保の難しさが、現時点では、予定通りには実現に至っていない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の評価は、職員各自が自主的に手分けして取り組み、課題が明らかになり、職員個人の目標も出てきた経緯がある。今回は、日常の職員体制が整いにくい状態があり、管理者・計画作成担当者が主として取り組んできている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議において、事業所からは、利用者の近況、職員研修、介護給付の改正の動き、外部評価などの報告を行っている。地域民生委員・地域包括支援センター長、社会福祉協議会職員などの委員からは、地域の行事、認知症勉強会などの情報を受け、職員は地域の各会合に出かけ、認知症理解を深める努力を行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議、家族会や家族の訪問時の場において積極的に情報交換し、相談を受け入れている。意見・苦情があった場合、速やかに対応するように心がけているが、「苦情相談対応シート」に記載されるような重いケースはほとんどない。「苦情・意見箱」を通しての要望もない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの夏祭りでの住民との交流、地域の「弥生会」による太鼓・踊りの披露、近隣保育園児の敬老会への参加招待、ボランティアによる定例の民謡・書道教室、イベントの応援、近隣住民からの日常の散歩時の休憩場所の提供など、長い蓄積を通して、地域の中に溶け込んでいる。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に多様なサービスを配置している法人の中で、事業所の理念は、「ひとりひとり、人間らしく、豊かな日々を過ごす」などと記述された6項目の中に、「地域を歩き、街へ繰り出し、自然の中を歩き、元気に過ごす」と利用者のより豊で当たり前の暮らしの具現化を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「何を大切にして利用者の生活を支えようとするのか」の原点を、共に日常において心に刻むよう、理念を玄関に掲示している。職員自身が理解を深め、了解し、日常業務の中で生かすよう、全体会議の中などで、管理者は意識して話し合い、具体的に動いている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りイベントでの地域住民との交流、敬老会への近隣保育園児の招待、ボランティアによる民謡・書道支援の受け入れ、認知症理解講座への出講など、地域に広く接点をもっている。単に行事を通してなどとの現象面でなく、生活を通して地域との関係が形成されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回は、職員が前向きに取り組むことにより、課題を共有することができ、管理者はその必要性を十分認識している。しかし、職員体制の確保の難しさもあり、提起された課題の解決には至らなかった。今回の自己評価の作成も職員全体が取り組むまでにはならなかった。	○	直面する問題の解決を図る日常業務とは異なり、評価は利用者の全体を把握し、改めて理念に照らし、支援を振り返ることができる。評価に携わる職員の多くの気づきを生み出し、日々のケアの改善に繋がるものであり、職員が一体となって、評価項目の問いに取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からは、行事予定、職員研修・事故内容、外部評価・実地指導の結果が報告されている。委員からは「福祉ふれあい広場」、地区社協の「ふれあい食事会」、「認知所サポーター養成講座」などの情報提供を受け、地域との協働のきっかけづくりの場になっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	浪速区の社会福祉施設連絡会での研修会・交流会への参加、在宅医療を支える「やわらぎの集い」に参加し、症例検討などを通して地域の医療と福祉の連携に役立っている。入居申込者の入居実現に沿うよう、地域包括支援センターに繋ぐなどの連携も取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年2回開催の家族会で全体の報告をし、家族の訪問時には利用者の近況や健康状態を報告している。日常の小口預かり金は「使用明細報告書」を毎月送り、報告している。担当者からの音信を付け加えるなどの行き届いた報告も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員の顔写真を入口に掲示し、家族の訪問時には、何でも話し合えるような雰囲気作りに努めている。ニーズ・意見・要望は信頼関係がある中で聞き取り、必要な場合は運営に反映するよう対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入職した時は、利用者との関係に慣れていく準備期間中、主に管理者が各シフトごとに付き添い、利用者への説明、個別的ケースの対応の仕方などを指導している。利用者と一緒に行動することを通して、顔を覚え、身近な存在になれるよう意を用いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の多面的な能力開発を計画的に進めたく考えているが、内部研修を随時開催するにとどまっている。各種外部研修の情報収集に努め、職員が積極的に参加できる機会を増やすには、職員の受講体制が整いにくく、さほど進展しているとは言えない。	○	職員が習熟度の段階において学びの機会をもつことは、仕事への喜び、やりがいに繋がり、働きやすい職場を実現し、グループホームに求められる社会的役割を果たすために有効に作用する。全職員の年間研修計画の作成と、研修機会の確保の工夫が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「大阪市グループホームネットワーク」の研修会に参加し、実際の援助ケースの報告をしたり、情報交換を行なっている。浪速区のネットワーク(医療・福祉)「やわらぎの集い」で得た専門知識を現場で活用している。より良いサービスに発展させていこうという前向きな姿勢が伺える。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や社会から取り残されるように感じる利用者の不安は、計り知れぬものがあり、段階的に安心感をもち、慣れ親しむように、ゆっくり話をする、よく話を聴くとか、利用者の心を受け止めるように関わっている。その関係の中で、必要に応じて生活状況を把握していくよう、気を付けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者がもっとも輝いていた時の話を聴くとか、編み物、折り紙、歌を歌うなどを一緒に行なう中で、心に向き合う場面ができてくる。安心と安定感が生まれ、理解されたと感じた利用者からは本音が聞かれ、その個性や経験、また生き方などで教えられることが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	強がったり、寂しがったり、話さなくなったり、素早く動き回ったりと、利用者の現われ方はまちまちだが、その仕草からのサインを見失うことなく、意向を推し量っている。時にはその人の人生の一端に触れ、その人を身近に感じることもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者は定例のケアカンファレンスにおいて、現場職員の情報・意見を聞き取り、介護内容をチェックしている。家族の思いは面会の中で理解し、支援目標を明確にして、焦点を絞った介護計画を立てることを基本的態度としている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の記録の積み重ねをデーターとして、2ヵ月ごとのケアカンファレンスで、介護計画の検討・見直しを行っている。状態が変化した際には、随時ケアカンファレンスで検討し、実情に応じたサービスに繋がるように、新たな計画作成を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今までの関わりの積み重ねから多機能な支援を実施している。通院支援、入院見舞い、家族の葬式、教会出席、看取りなど、利用者や家族の要望に応じて柔軟に対応している。医療連携体制を生かして、利用者にとって負担となる受診や入院回避の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関のほか、自由な選択に基づき、利用前からのかかりつけ医において必要な医療を受けられるように支援している。協力医の檜山診療所とは24時間オンコール体制になっており、急な往診にも迅速に対応できる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族が安心してサービスを利用できるよう、重度化や終末期に備えて、看取りの指針を作成している。必要とされる場合は、本人の思いを把握した上で、家族と話し合い、記録に残し、同意書を交わしている。看取りまで支援した実績は今までに数例ある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への対応の仕方では、本人を傷つけてしまわないように、目立たず、さりがたい言葉がけをするなどと配慮している。記録や個人ファイルなどの個人情報の保管・取り扱いは厳重に行っている。職員には「守秘義務に関する宣誓書」を取り交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者の一日の過ごし方では、特別な日課のようなものは余り設けず、個人の希望、ペースを尊重している。中庭の植木を見ながら雑談したり、食事の準備をしたり、静かにソファにもたれかかったりと、心地よい気持ちになれる暮らしが続けられている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりは日常生活の一部になっており、利用者には負担にならないように配慮されたもとの、テーブル拭き、調理、後片付けを手伝い、雰囲気を楽しんでいる。「姉ちゃん知らんのか」と調理の仕方を教える時、知恵袋としての生き生きとした表情を表す場面がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が自宅の風呂でリラックスする、そのような気分を味わえるよう、檜づくりの浴槽になっている。浴室面積は約20㎡あり、浴室に入って十分介助動作を行なうことができるようになっている。コンディションにもよるが、基本的には毎日入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員の支えのもと、料理での野菜切り、洗濯物干しなどとホームでの役割を果たし、周りから必要とされていると実感している。歌謡曲をかけてのカラオケ、散策、家族一緒でのバーベキュー料理などの行事で、楽しみや張り合いのある生活を送れるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自然や地域社会に出来るだけ触れるのは、当たり前の生活であるとして、30分ぐらいの散歩に出歩いている。原則として1～2人に対して職員1人が同行している。ホームや家族の車で公園、神社などに繰り出すケースもある。車椅子を利用しての外出も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	拘束の中に生活はないとして、夜間以外は玄関に施錠していない。利用者の外出願望を察知すると、それとなく声かけをし、連れ立って出かけ、気分転換、心理的圧迫などの解消を図るよう心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で定期的に年2回、消防署と連絡を取りながら総合訓練を実施している。協力医療機関、連携施設とは支援体制などの確認を定期的に行なっている。同法人の隣接する愛染橋病院は、災害拠点病院に指定を受けている。スプリンクラーは開設時から設置している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況は、毎日チェック表に記載し、職員は相互に把握している。水分の摂取量は、一人ひとりの状態に合わせて確保し、管理が必要な利用者には毎日測り、記録し、個別に対応している。食堂には茶入りポットを常置し、いつでも水分を補給できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用定員9名に対して床面積が530㎡と、恵まれた環境になっている。館内は木目調にデザインされ、和風住宅風に掛け障子を配置するなど工夫をしている。屋上庭園、中庭などの自然の取り込み、落ち着いたソファや思い思いに過ごせる縁台、対面式のキッチンなどにきめ細かな配慮が伺える。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室ごとにデザインが異なる照明ペンダントの取り付けた室内には、使い慣れた家具、馴染みの手工芸品、家族の写真などを飾り、過去とのつながりを大切にしてい、その人らしく暮している姿が目に見えてくる。自らの居場所であるとの雰囲気を感じさせている。		